No.58
2014. 3. 10

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

■地球の木講座 ……1
■フィリピン台風被災者支援はバナナ生産者に ……2
■from Laos ……3
■from Cambodia ……4
■from Nepal ……5
■第１回地球の木国内スタディツアー ……6
■未来の食卓～お米食べていますか～ ……6
■気仙沼だより　その6 ……7
■国際協力NGOによる緊急声明発表 ……7
■活動日誌 ……7
■INFORMATION ……8

地球の木講座

取り返しのつかないことのないように…

アーサー・ビナードが語る

地球の木が地球市民教育活動として毎年開催している「地球の木講座」。今年は1月31日、開港記念会館にアーサー・ビナード氏をお招きしてお話を聴きました。アーサー・ビナード氏は、ミシガン生まれのアメリカ人で日本語で詩を書く詩人。良きアメリカの故郷と良き日本の文化や日本語をこよなく愛し、独自の感性で詩作や翻訳などの創作活動をすると同時に、テレビ・ラジオへの出演やエッセイなどを通じてグローバリゼーションと新自由主義の台頭に警鐘を鳴らしています。そんな彼の生き方は、地球の木の目指すものと方向を同じくすることから、今回の「地球の木講座」が実現しました。

エネルギー政策と原発・原爆

折りしもアメリカ合衆国オバマ大統領の一般教書演説の直後。この話題から講演が始まりました。ビナード氏が取り上げたのは合衆国のエネルギー戦略の部分。オバマ大統領が強調していたのは、シェールガスなどの新エネルギーの開発を進め石油の輸入に頼らないエネルギー戦略の実現。そこには「原発の『げ』の字も出て来ない！」。合衆国では経済的に割の合わない原発はすでに過去のもの、大統領もまったく無視するエネルギーだということ。翻って日本を見ると･･･なんで？　そこから、日本の原発政策の不思議を、歴史を遡って説き明かしていきます。

彼が原発と原爆の問題に気づいたのは20年前に来日してから。ヒロシマ・ナガサキはもちろん、第五福竜丸事件について調べると、そこからいろいろなことが見えてきたと言います。彼がこの事件についての詳細を静かな怒りを込

めて語り始めると、会場は静まりかえって聴き入りました。そこには日本人が表面的にしか知らない事件の、本当の姿が浮かび上がってきたからです。

「せいかつゴックン！」

そして、今回の講演テーマ「せいかつゴックン！」へ。これは昨年秋に刊行された著書「かいぞくゴックン（翻訳絵本・ポプラ社）」から取ったもの。海賊たちのもとにもたらされた宝島情報。大喜びで出帆し、ついに宝島を発見して財宝を手にしたと思ったら･･･。よく読み直すと、はじめからいたるところに伏線が張られていて、裏に隠された事実に気づくチャンスは何度もあったのに、引き返す機会もあったのに、ずるずると流されていくと取り返しのつかないことに･･･という風刺が込められているのです。私たちの生活も、世の中の気分に流されたり騙されたりしないよう気をつけていないと、海賊たちのように「でっかいぶつ[*1]」にゴックン！　絵本を手に語るビナード氏に聴衆もいつのまにか引き込まれていました。

英語と日本語、日米の社会と歴史に対する造詣の深さを駆使し、ときには親父ギャグ風のユーモアを交え、深刻な社会問題をわかりやすく、鋭く語るビナード氏。平日夜にもかかわらず集まってくれた100人近い参加者に、勇気と力を与えてくれた2時間でした。

（地球の木講座実行委員　斎藤 聖）

＊1「巨大な怪物」の意。「かいぶつゴックン」で使われている、ビナード氏の造語。

■発行 特定非営利活動法人 地球の木 理事会　■発行責任 丸谷士都子　■編集 広報部　■事務局 〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F
■TEL 045-228-1575　■FAX 045-228-1578　■E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp　■http://e-tree.jp/

ありがとうございました
フィリピン台風被災者支援はバナナ生産者に

支援物資を配布する：
北ネグロスカディス地域
(写真提供:ATJ)

昨年の11月8日、フィリピン中部を襲った超大型台風30号(フィリピン名ヨランダ)は、レイテ島を中心として、犠牲者約6,000人、行方不明者約1,800人、高潮による被害も大きく、国連の担当者によれば、復興に10年はかかると報道されています。地球の木では、募金の呼びかけでお知らせしましたように、2006年度まで行ったネグロス島支援や開発教育教材「マジカルバナナ」の作成などで協力関係にある「特活・APLA（旧名JCNC：日本ネグロス・キャンペーン委員会）」を通じ支援を行います。支援は、国際的にも支援の手がさしのべられていないパナイ島およびネグロス島の被災者を対象に行われ、地球の木の支援金はその復興支援に使用されます。

1月22日、APLAへ緊急支援として20万円を送金いたしました。

被災地の状況

＜パナイ島＞　台風が上陸したパナイ島北部では、13メートルを超える高波が押し寄せるなど大きな被害があった。北部地域には、約200世帯のバランゴンバナナ生産者（漁業との兼業者もいる）がいて、バナナは全滅状態。ほとんどの家屋は倒壊し、他の農作物も壊滅的な被害を受けた。

＜ネグロス島＞　台風の直撃は免れたものの、ネグロス島北部海沿いの約900戸の家屋が倒壊し、多数の住民が避難するなど大きな被害があった。北部には約270世帯のバランゴンバナナ生産者がいて、70%以上のバナナが倒され、他の農作物も被害を受けた。

全壊した家屋：北部ネグロス地域 (写真提供:ATJ)

バナナ生産者へ支援物資を届ける：パナイ島 (写真提供:ATJ)

被災者支援

緊急支援は、2014年1月末現在ほぼ終了。その内容は、

- パナイ島北部、ネグロス島北部被災者を対象に、食料（米・麺・缶詰・マスコバド糖）を、バナナ生産者でない人も含め3,000パック配布。
- パナイ島バナナ生産者を対象に、家屋再建資材の提供。
- パナイ島バナナ生産地を対象に、ソーラーパネル10台を含め充電機材の提供。

復興支援は、2014年2月から約1年間の予定。復興には専門の担当者が計画、実施に当たる。対象は、パナイ島北部約200世帯、ネグロス島約270世帯のバランゴンバナナ生産者。その内容は、

- 当面の生活補助
- 作物種子の提供
- バランゴンバナナの株・肥料の提供（バランゴンバナナとは、バナナの品種のひとつ）

＜地球の木とネグロス＞

ネグロス島は約7割の人が砂糖に関係があると言われるほどの「砂糖の島」で、そこには砂糖きびの大農園がありました。砂糖大農園というと、植民地時代の砂糖プランテーションと奴隷を思い浮かべる人もあるかと思いますが、そのような過酷な労働環境が残っていたのです。

そこに1985年の砂糖価格の大暴落が起こり、農園主は生産をやめ、それでなくてもきびしい労働者は仕事を失い、飢餓が起こりました。国際的にも報道され、翌年の1986年、日本にJCNCが発足し支援が始まりました。その支援に日本の生協団体も協力し「バランゴンバナナ」を通じた支援の形が生まれました。

バナナは、元砂糖農園労働者や零細農民により生産されます。それらの民衆交易を担うオルタトレード社(ATJ)も設立され、以後JCNCとATJによる2本立てのネグロス連帯支援が進められます。地球の木には生活クラブ生協の会員が多く、バランゴンバナナへの思い入れが強いことなどもあり、JCNC（現APLA）への支援協力を始めました。なおネグロスの隣のパナイ島では、バランゴンバナナの生産が1993年から始まりますが、かつてパナイ島からも多くの季節労働者がネグロスの砂糖農園に働きに来ていました。

（元フィリピン担当・たうんチーム　米林 大作）

from Laos

ベトナム企業によるゴムの産業植林

2013年11月からラオスに赴任しております於勢泰子と申します。私が、初めてラオスを訪れたのは2004年のことです。当時、ヴィエンチェンでも車やバイクの数は非常に少なく「ここが首都なの？」と驚いたものです。ツクツク（人力車のような乗り合いタクシー）が走っている光景が印象的で、ゆったりと時間が流れていました。「ラオスは、このままでよいのではないか。『開発援助』という名のもとに、様々な支援が外部から入ってくることで、この『桃源郷』を壊してしまうのではないか」という予感がしていました。あれから10年の歳月が流れました。残念ながら私の「予感」は的中し「いつまでも『桃源郷』であってほしい」と願った町は、すっかり姿を変え、道路には多くの車とバイクがあふれ、風情のあったツクツクは姿を消しつつあります。

近年、ラオスの農村部では大企業による産業植林が進み、村人が生活の糧を得ている自然の森が失われつつあります。1960年代に64%だった森林率は、約40%にまで減少しています。誰かの暮らしを犠牲にした経済成長は、決して喜ばしいものではありません。森林には、食糧供給以外にも、二酸化炭素の吸収、洪水・渇水の緩和（水源の涵養）などの機能もあります。今後は、JVCラオスの活動を通じて、自然環境や村人の暮らしと調和のとれた「発展のあり方」を私なりに模索していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

（JVCラオス現地駐在員　於勢 泰子）

ご飯が炊けるのを待つ

市民活動家の失踪から一年

2013年12月15日、ビエンチャンの、あるNGOの事務所で200人ほどが集まるイベントが開かれたこの日は、ラオスのローカルNGO（PADETC）の創設者であり代表のソムバット・ソンポーン氏が失踪してから1年にあたる。ソムバット氏は、ラオスのNGOの草分け的存在で、その活動が高く評価されている人物の1人である。イベントでは参加者がそれぞれに、彼の功績を讃え、無事を願っていた。

ラオスでは、2012年10月頃から国際会議が続き、国際NGOを中心に市民社会は、政府への政策提言やドナー国およびメディアへの問題発信を活発化させていた。この動きを警戒したラオス政府は、12月初旬、市民社会側のリーダー的存在であったスイス人女性を国外退去にした。そして、その1週間後に、ソムバット氏が警察に連行され、失踪したのである。それはまるで、市民社会に対する“見せしめ”のようであった。

その後も政府からの締め付けが緩むことなく、市民社会を取り巻く環境は一気に悪化した。1年経った今も、NGOの活動は消極的なままである。現地のNGOは、政府からの視線を意識して国際NGOから距離をおき、国際NGOも政府と対峙するような活動は行わない。NGOの自己抑制が広がっている。しかし、ラオスの社会には、この失踪に代表されるような人権や貧困、森林や汚職などの問題が横たわっている。社会全体のビジョンを描き、それを実現していくことなくしてラオスの未来はない。

失踪から1年。ソムバット氏の妻シュイメンさんは夫に宛てて手紙を書いた。以下はその一節である。「ソムバット、あなたがいなくなり、心の痛みが消えません。私が存在できている唯一の救いは、あなたがまだ無事で戻ってきてくれると希望を持っているからです。私はあなたに誓います。たとえ、それがどれだけ苦しく、長くかかるとしても、休むことなくあなたを探し続けます」

この手紙には、彼女はいかなる状況になろうともあきらめないという決意が満ちている。自由が制限されているラオスで、あきらめずに立ち上がる人をどのように支えるか、NGOとして自分にできることは何なのか、常に自問しながら日々活動を進めている。

（JVCラオス現地駐在員　林 真理子）

ラオスでは実施できないため、タイで行われた人権を訴えるキャンペーン

ソンバット氏と妻シュイメンさん

（写真出典元：http://sombath.org/news/）

from Cambodia

村の米事情

カンボジア・タケオでは12月は稲の収穫のシーズンです。カンボジアでは、米を１年に２回３回収穫できる地域もありますが、タケオでは、水資源が乏しいために、1年に1度しか米は獲れません。主食であるお米の一年分を手に入れる大切な時期。村のあちこちの田んぼで刈り入れが行われていました。

カンボジアの米の価格は需要と供給によって、一年を通してかなり上下します。収穫期後の今は一番安く、収穫期前はその価格が高騰するのです。貯えのない家、借金がある家は、収穫してすぐに米を売り、余裕のある家では、そのまま貯えて米の価格の上昇を待ちます。すぐにお金が必要な人たちの「足元」を見て、安く米を買おうとする業者のトラックが村の中を走り回っています。安く売ってしまった人たちは、あとで高い米を買わなければなりません。富める者は益々富み、窮する者は益々窮する仕組みとなっているようです。

たたいて脱穀をする

輝くスカーフたち

2月5日～18日まで、フェアトレードをおこなっている団体と一緒に、ヴァレンタイン企画「-LOVE- フェアトレードでHappy Life！」に出店しました。会場は、東京・恵比寿三越百貨店2階アトリウム。吹き抜けのエスカレーターの周りで、フェアトレードのチョコレート(ACE)を販売し、地球の木は訓練センターやアン村で作った手織りのシルクスカーフとオリジナルの小物を販売しました。柄がよく見えるようにディスプレイされ、スポットライトを浴びて輝くスカーフたち。「キレイな色ね～」思わず足を止めるお客様も多く、販売はもとより、フェアトレードや地球の木のカンボジアプログラムの話などもたくさんの方に伝えられる機会となりました。

（クメールシルクチーム　筒井 由紀子）

カンボジア 織物シリーズ

地球の木がカンボジア・タケオで織物生産による女性支援に取り組み始めて８年―カンボジアの社会・経済は急激に変化し、人々の衣服も都市部を中心に洋風化してきました。それでも暮らしの要所に伝統の織物は脈々と受け継がれています。それらを３回シリーズで紹介していきます。

その1　今、カンボジアで見られる織物

クロマー

木綿の多目的布です。日本の「手ぬぐい」のようなものですがもうすこし長く、帽子のように頭に巻いたり、荷物を包んで運んだり、赤ちゃんを入れてだっこひものように使ったりします。基本は赤と白、あるいは青と白のチェック柄。今では化繊のものも多く多色のクロマーが市場で安く売られています。誰でも持っています。

サローン

普段着の腰布で基本は木綿です。女性ものは今は輸入された工場生産の化繊のプリントものが多いです。男性もはきますが、家の中でしかはかないそうです。

サンポット

女性用のスカートです。90×190cmくらいの大きさの布を巻きます。結婚式や、お寺のお参りや法事で着る正装です。絹紬、あるいは絹紋織で中には金糸銀糸が織り込まれている華やかなものもあります。

チョン・クバン

サンポットの約2倍の長さがある腰布です。袴のようにしてはきます。

昔は男性も女性も普段にはいていたそうですが、今では結婚式や舞踊など儀礼のための織物になっています。

ピダン

お寺を荘厳する絹の絵紬です。仏像の上部の天井にかけ、天蓋の役目をします。釈迦の物語が描かれていたり、お寺などの建築物、優雅に舞う天女、お供え物、祖先の霊を乗せてあの世に運ぶ霊船、象、鳥（鳥は大地と天上の世界を行き来するもの）生命の木、そして蛇（ナーガ）などが描かれています。

（クメールシルクチーム　大薮 明恵）

from Nepal

「ロシ・ラハール」の記事から
帰ったらマンガルタールのために働きます！

2014年最初の「ロシラハール[*1]を読む会」では、今、日本で研修中のプレムさんが寄稿した記事「私が見た日本」を読みました。プレム・ラマさんは、地球の木がネパールで行っている「幸せ分かち合いムーブメント」の対象地域であるマンガルタールのピンタリ村出身です。関西で研修生の受け入れをしているNGO「PHD[*2]協会」の31期研修生3人の内の１人に選ばれ、昨年4月から一年間の予定で農業研修をしています。そのプレムさんが日本に来て何を感じ考えたのか、それを自分の村の人たちにどのように伝えているのか、とても興味深く読みました。下記にその内容の一部を抜粋して紹介します。

ピンタリ村の皆さん、KONNICHIWA！私は、開発が最高到達点に達した美しい国、日本の神戸という都市からこの手紙を書いています。私はここで、日本の有機農業（窒素肥料や農薬を使用しないで農業をする方法）について研修を受けています。そのため、日本の農家に住み、彼らと共に一日中仕事をし、彼らの慣習や知識、技術を学び続けています。

日本の農家はとにかく働き者です。彼らに比べると、私たちは少ししか仕事をしていません。日本では70歳や80歳のお年寄りも自分の田畑でたくさん働いています。私はここではピンタリ村にいる時より大変です。日本では、今日は日差しが強いから、雨が降っているからといって休むことができません。私たちの村のように気が向いたら仕事をして、ある時はチョウタラ（休憩場所）でおしゃべりをして過ごす、ということはありません。

ここでは、畑にでかける時は歩く必要はありません、車で行きます。種を集めて植えたり、刈り取って家に運ぶなど、全てを機械で行います。また、私は養鶏についても学ぶ予定です。二年前、ピンタリ村では養鶏方法を知らなったために多くの人が失敗をしました。皆さん、安心して下さい。私が養鶏や飼料の作り方を習って帰ります。そのために必要なものは私たちの村で入手できます。

私はここでは二つのことで忙しいです。一つは仕事をすること、もう一つはその仕事の手順や方法を習うことです。有機農業は、窒素肥料や農薬を使用しないため、健康によく、持続性があることが分かりました。しかし、私はここで習った有機農業の知識や技術をマンガルタールでどのように教えられるか、少し案じています。マンガルタールで完全に農薬を使わず、有機農業をする責任は私の肩にかかっています。私が日本で習った知識、技術を自分の地域の農家に伝えられなければ、私が自分の国を離れ家族をおいて遠い海の先に来た意味がありません。

日本人は規律や規則をよく守ります。私は日本に来て4か月経ちますが、日本人が喧嘩をしたりいがみ合う声をあげている様子を見たことも聞いたこともありません。日本人は社交的で勤勉で働き者で規則をきちんと守ります。年下が年上を敬い、上の者は下の者を愛します。また、どれだけにぎやかでも騒音は聞きません。日本のインフラ、例えば整備された道路、灌漑設備、便器、水道などを見ると、地上の天国にいるような気がします。日本には食べ物も色々なものがあり、一つの食材にも様々な食べ方があります。私は日本から帰ったら、ピンタリ村とマンガルタールの開発のために働きます。ありがとうございました。

プレム・ラマより

新横浜のオルタ館を訪れた研修生一行

編集部註＊1：幸せ分かち合いムーブメントを地域に広げるための季刊誌
＊2：Peace（平和）、Health（健康）、Human Development（人づくり）の頭文字をとって名づけられた草の根の人々による国際交流・協力の活動をしている団体

第1回地球の木国内スタディツアー「農的暮らしって何だろう？」

2013年11月2～3日　山梨県白州・長野県富士見町、原村訪問

地球の木は、地球市民教育の一環として持続可能で「豊かな」暮らしを考えてきた。今年度は、エネルギーや環境などの分野で先進的な試みをしている人たちから学ぼうと「国内スタディツアー」を企画した。

最初の訪問地「おちゃのじかん」は、有機野菜や天然酵母パンにこだわった自然食カフェ。カンボジアで活動していたマスターは、一極集中の大都市ではなく、地域の中で循環し完結する暮らしを楽しみたいとこの地を選んだという。

豊かな水と緑に恵まれた白州では「五風十雨（ごふうじゅうう）農場」を見学。ソーラーパネルで売電し、煮炊きは「ロケットストーブ」やもみ殻を燃料とする「ぬかくど」を用い、トイレには雨水を利用するなど、環境に配慮した工夫で溢れていた。

山道をドライブしていくと人里離れた山間地に突然、素敵な西洋館が現れた。3階建のこの渡辺さんの家は、太陽熱を利用し、冬でも暖房要らずだそうだ。外にあるコンポストトイレは、ピートモス、燻炭、米ぬかなどを入れ、菌が分解するしくみなので、臭いもなく、最後はサラサラな土になるので、畑に蒔くこともできるという。天ぷら油の廃油を使った車に至っては、一同びっくり仰天！1,200坪の畑で家族が仲良く無農薬野菜を作り、平和に暮らす様子は絵になる光景だった。

このツアーを企画して下さったのは、地球の木会員の北原さん。富士見町に移住して「農的暮らし」を実践している。これまた環境に優しい工夫を凝らしたお宅で、地場の有機野菜をふんだんに使った夕食をいただき、話は尽きることがなかった。

翌3日は黒岩農園を見学した。「耕さない」「植物や昆虫の多様性を歓迎する」「肥料や農薬は必要ない」という『自然農』をストイックに実践し、食料の97％を自給しているというご夫婦の信念に圧倒されたが、自然農で生計を立てることの厳しさも知った。

今回のツアーは「とても内容が濃かった」と大好評。参加者の関心も高く、互いに学び合うことの多い、その名の通りの「スタディツアー」であった。

（国内スタディツアー実行委員　乳井 京子）

コンポストトイレ

黒岩夫妻

ぬかくど

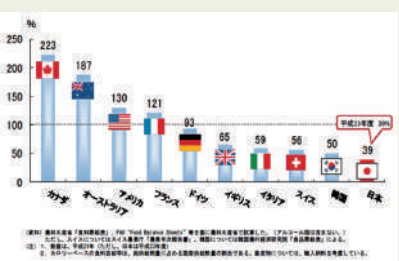
ロケットストーブ

よこはま国際フォーラム2014

未来の食卓 ～お米、食べていますか？～

2月9日JICA横浜で開かれたフォーラムに地球の木は「ワークショップ『未来の食卓』－お米が食べられなくなる日が来る!？」で参加した。前日に大雪が降った影響か参加者は少人数だったが、2つのグループに分かれて話しあった。

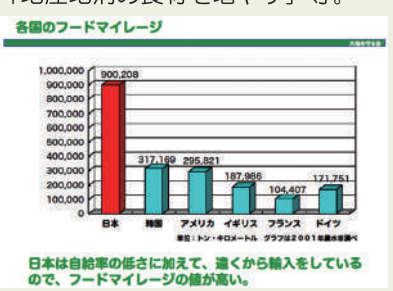
私達が食べている食物が国内だけでなく、ほとんどが外国から燃料費をかけて運ばれてくること。たとえば、パンや麺類の材料の小麦粉も味噌や豆腐の材料の大豆もアメリカやカナダなどからきていること。主食の米だけが、かろうじて自給できている。



各国の食料自給率

農業大国と言われている、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス等は、国が重要な政策として農業に多額の支援をしていること。日本の農業への支援など足元にも及ばないこと。特に米作りの農家にとって米作りだけでは生活しにくい状況になってきたことがよくわかった。

その後、『未来の食卓』について皆で話しあった。「食材が画一的になり、大量生産の食材が増える」「味も同じになり特色が失われ、その土地だけの特産品がなくなる」「地産地消が出来にくくなる」等。『望ましい未来の食卓』にするには「食物を大切にする教育をし、日本文化に米がいかに重要なものであるかを知って和食を大事にする」「地産地消の食材を増やす」等。



和食が無形文化遺産になった今，コメ文化を守っていかねばと考えさせられたワークショップだった。

(会報作成チーム　柏柳 妙)

気仙沼支援報告
気仙沼だより その6

こんにちは。私たちTreeSeedのメンバーは、震災後、全国から来ていただいたボランティアの人たちに頼るばかりではなく、震災を体験した私たちの「できることがある」「やらなければいけない」「悲観ばかりではない」という気持ちから、地元の有志を募り、被災物（がれき）の撤去や、ヘドロの除去、仮設住宅のコミュニティー支援などの活動を行ってきました。全国の皆さんの応援のおかげです。ありがとうございました。

震災前私たちは、地元からあまり出ることもなく、他の地域の人たちとの交流もあまりありませんでした。震災後、「地球の木」の皆さんをはじめたくさんの人たちと交流を持つことができました。それは、被災地にとって一番のうれしいこと、心の支えだと思っております。皆さんの応援、人と人のつながりの大切さを改めて思い、皆さんの気持ちを受け取ることができました。

昨年11月、横浜市での復興まつりに「地球の木」の招待で参加させていただきました。山下公園というすごく大きな会場で、私が想像していたものとのギャップで少し戸惑いましたが、たくさんの催しと、たくさんの団体や来場者の方々に心を踊らされ、皆さんに現在の気仙沼市をお伝えでき、うれしく思いました。私たちも、気仙沼市の特産物、ふかひれスープや、もうかの星（サメの心臓）などを販売させていただき、皆様に喜んでいただけたのがうれしくて張り切ってしまいました。いろんな人たちと出会えてすごく幸せでした。

大漁旗を掲げ「東日本復興支援まつり」に参加

震災から３年が経とうとしている中、皆さんの関心、心配、応援いろいろな気持ちを直接感じることができました。被災地の情報がほとんどニュースなどで流れないとのことで、私たちへの質問や、話に耳を傾けてくれる方が多く、現在でも応援して下さる人たちがたくさんいることに本当に感謝しました。また、私たちももっと頑張っていこうと力をいただきました。

現在、気仙沼市はかさ上げの準備が始まりました。高いところでは2メートル近く土を盛る場所などもあります。仮設住宅の人たちは「まだかまだか」と復興住宅や、集団移転先の完成を待っております。3年が経つ今、遅いようで早い復興が被災地では始まっています。正直、震災前と同じような街には戻れないと思いますが、微力ながら、私たちの力も合わせて震災前よりもいい街にしていきたいと思っておりますので、これからも応援していただければ嬉しいです。

気仙沼市にお越しいただくとき、復興に頑張っている、復興した元気な気仙沼市を見ていただければと思います。もし、TreeSeedに声をかけていただけましたら、ご案内なども致しますので、気軽に声をかけてください。気仙沼市、TreeSeedは、これからもがんばっていきます。

（TreeSeed　小野寺　大志）

国際協力ＮＧＯによる緊急声明発表
特定秘密保護法案の強行採決に抗議する

昨年12月11日深夜に、臨時国会において特定秘密保護法が強行採決されました。この法案に関するパブリックコメントでは8割近い人々が反対の意思を表明し、各界や市民グループの反対活動が盛んに行われていた、まさにその時でした。

地球の木もこの強行採決に抗議するNGOの緊急声明に参加しました。情報の隠蔽、民主主義の侵害、平和を守ることが難しくなるおそれが強く懸念されます。NGO活動だけでなく、市民活動そのものへの影響が強くなることは必至です。今後ともこのような動きには断固反対していきます。　（理事長　丸谷士都子）

活 動 日 誌（12月～2014年2月抜粋）

12月
- 6~7日　デポー展示会（つなしまデポー）
- 8日　ネパールスタディツアー説明会
- 14日　デポー展示会（東戸塚デポー）
- 17日　第6回国内事業ミーティング

1月
- 11日　JICA横浜開発教育教員セミナー「マジカルバナナ」
- 15日　生活クラブ新春を祝う会に参加
- 16日　第5回理事会
- 21日　第7回国内事業ミーティング
- 26日　第2回かながわ「共に生きる」学習会（横浜中央YMCA）
- 31日　地球の木講座「せいかつゴックン！」（開港記念会館）

2月
- 5~18日　-Love-フェアトレードでHappy LIFE！参加（恵比寿三越）
- 9日　よこはま国際フォーラム2014「未来の食卓」
- 11~19日　ネパールスタディツアー
- 18日　第8回国内事業ミーティング
- 19~25日　ラオス訪問
- 20日~23日　第13回南北コリアと日本のともだち展（青山こどもの城）
- 25日　第6回理事会

第15回地球の木総会のお知らせ

日　時：5月31日（土）13：30～16：30
場　所：オルタナティブ生活館2階オルタリアン

※詳細は同封の「総会のお知らせ」をご覧ください。

幸せ分かち合い年末募金、フィリピン台風緊急支援へ

ご協力いただき、ありがとうございました！

皆さまの温かいお気持ちに感謝いたします。
年末募金の各寄付先と募金額、フィリピン台風緊急支援の募金額は以下のようになっています。

［年末募金］
・無指定 339,060円　・ラオス 20,500円
・ネパール 37,000円　・気仙沼 16,500円
・カンボジア 36,500円　・合計　449,560円

［フィリピン台風緊急支援］
・フィリピン 212,500円

※フィリピン台風被災地への支援状況については2ページの詳細報告をお読みください。

地球の木カレンダー「心のお陽さま」販売報告

ご協力をありがとうございました。

みなさまのご協力のおかげで848冊販売いたしました。
予定の書き込みがしやすい地球の木カレンダー、購入希望の方は事務所までご連絡ください。

外国人学校の子どもたちの絵画展

日　時：3月9日（日）～30日（日）＊17日は休館
　　火～金 9:30～20:30　土日月祝 9:30～17:00
会　場：横浜市中央図書館1階展示コーナー
最寄り駅：JR・市営地下鉄「桜木町」/京急「日ノ出町」
共　催：外国人学校の子どもたちの絵画展実行委員会、
　　横浜市中央図書館
横浜市内にある7つの外国人学校の子どもたちが「本」をテーマに絵を描きました。地球の木も参加団体です。

かながわ「共に生きる」学習会

神奈川に住む外国籍の人たちと「共に生きる」ことについて、たくさんの市民と一緒に考えていくための講座です。

第3回　「近現代史から学ぶ～在日はじめて物語」
■日　時：3月15日（土）14：00～16:00
■場　所：横浜中央YMCA
■講　師：李柄輝氏（朝鮮大学校 准教授）
■参加費：500円　学生無料
■主　催：ビビンバネット
■申　込：E-mail:pibimbanet@ybb.ne.jp
　　神奈川ネットワーク運動（竹中）
　　TEL:045-651-2011

地球の木カフェ　期末セール

・ラオスの手織りシルクスカーフが30%～50%OFF
・ラオス絣シルクスカート（ぽっちゃりさんタイプ）が40%OFFなどなど…
・三越でも大人気の春色のスカーフが、カンボジアから届いています。

恒例のワンプレートカレーもありますよ。

日　時：3月26日（水）11：00～18：00
場　所：地球の木事務所

ラオス報告会

日　時：3月29日（土）13：30～15：30
場　所：横浜文化体育館内平沼記念レストハウス

前回も訪れたサイファイ村の周りは、広大なゴム農園になっていました…
ラオスの村の最新の状況をお伝えします。

″心を揺さぶる″ ネパール・スタディツアー報告会

日　時：4月5日（土）13:30～16:30（15:30～軽食）
場　所：レストラン「アジアン・パーティ」
　　（JR関内駅より徒歩6分　中華街玄武門入ってすぐ左）
会　費：500円（資料代）＋軽食代

激動するネパールの村のくらし、町のくらし、協同組合の女性たちのパワー！支援地で見たこと、感じたことを参加したメンバーが語ります。報告会の後は、エスニック料理を楽しみましょう。

あーすフェスタかながわ2014

今年も本郷台が熱くなります。各国の食事が楽しめる屋台村や掘り出し物が見つかりそうなワールドバザール！他にも様々な企画で一日中楽しめます。

日　時：5月17日（土）18日（日）10：00～16：00
場　所：あーすプラザ・栄区民文化センターリリス
　　（JR根岸線「本郷台」駅改札出て左すぐ）

引き出しの片隅に書き損じハガキや商品券などが眠っていませんか？
「もったいない！」を地球の木に送ってください。

地球の木は「認定NPO法人」格を取得しました
2010年7月16日以降のご寄付に関しては、皆様が確定申告で寄付金を所得控除できるようになります。また，神奈川県と横浜市の個人住民税からも控除となります

★ボランティア募集！発送作業、イベント手伝いなど